

J.LEAGUE™ NEWS



© J.LEAGUE PHOTOS

© J.LEAGUE PHOTOS

両チーム期待のFW、浦和の原口（左）と柏の工藤（写真は共に準決勝第2戦）

決勝は浦和レッズ vs 柏レイソル

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ準決勝で、浦和は川崎Fを、柏は横浜FMを下す

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップのタイトルを争うのは、浦和レッズと柏レイソル。浦和は川崎フロンターレを、柏は横浜F・マリノスをそれぞれ準決勝で下し、決勝への切符を手にした。浦和は10月12日に開催された準決勝第2戦で1-0の勝利。対戦成績は1勝1敗、2試合合計スコアも3-3と並んだが、アウェイで記録した得点数で上回り、2年ぶり5度目の決勝進出。柏は同第2戦で横浜FMに0-2と敗れて1勝1敗となったものの、第1戦で4-0と快勝しており、2試合合計スコアが4-2で14年ぶり2度目の決勝進出を果たした。決勝は11月2日（土）、国立競技場が舞台。（2ページに関連記事）

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee	Canon	KONAMI	AIDEM	Coca-Cola	McDonald's	JCB
J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER	J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER	LEAGUE CUP SPONSOR	SUPER CUP SPONSOR	J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER	J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER	J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER
朝日新聞	東映エレクトロニクス	ヤマザキナビスコ	FUJI XEROX	adidas	Johnson-Johnson	スカパー!
						トヨタ
						ぴあ

編集・発行 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

浦和レッズはアウェイゴールの差で勝利。 第1戦のリードが効いた柏レイソル



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

第2戦で貴重な決勝点を挙げた浦和の興梠(写真上)。写真下は浦和の那須(左)、川崎Fの久保の攻防

浦和レッズは2年ぶり、5度目の決勝進出を果たした。川崎フロンターレとアウェイで戦った第1戦で2-3と敗れており、勝つことが絶対条件となった第2戦。勝利に必要な得点を挙げるべく、立ち上がりから積極的に攻め込んだ。

川崎FのGK杉山力裕の好セーブなどで無得点のまま時間が経過したが、80分にFW興梠慎三がMF関口訓充のクロスを巧みに合わせて待望の先制点を決めた。この得点によって第2戦に1-0と勝利した浦和は、準決勝の対戦成績を1勝1敗、2試合合計スコアを3-3とし、アウェイで記録した得点数で上回り川崎Fを退けた。第2戦で勝利に貢献した興梠は「決勝では一人ひとりがどれだけチームのために走れるか、味方を助けられるかが大事」と語った。

一方、準決勝第1戦で横浜F・マリノスに4-0と快勝した柏レイソルは、第2戦で0-2と敗れて対戦成績は1勝1敗となったものの、2試合合計スコアが4-2で14年ぶり、2度目の決勝進出を成し遂げた。「第1戦の(4点の)



© J.LEAGUE PHOTOS

柏は第2戦で田中(中央)らの攻撃陣も懸命の守備(写真上)。写真下は横浜FMの先制点を決めるマルキーニョス

リードが効いた」とネルシーニョ監督。第2戦は逆転への強い意志を見せた横浜FMが、FWマルキーニョス、MF佐藤優平の得点で前半に2点のリードを奪うも、後半は柏が守備を引き締めて相手の攻撃をゴール前ではね返した。決勝に向けては、FW工藤壮人、DF渡部博文が「出場停止の選手の分まで頑張りたい」と口をそろえた。

浦和は2003年、柏は1999年にヤマザキナビスコカップで初優勝を飾り、共に2度目の優勝を目指す。11月2日(土)に行われる決勝は、2014年から建て替えが始まる現在の国立競技場が舞台となる同カップの最後のフェイナル。栄光の舞台上で高々と優勝カップを掲げるのは浦和か、それとも柏か。

2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム/左側のチーム：第2戦ホームチーム)



過去の決勝 (1995年は開催されず)

開催年	決勝(太字が優勝チーム)		開催年	決勝(太字が優勝チーム)	
1992	ヴェルディ川崎	1-0	2003	鹿島アントラーズ	0-4
1993	ヴェルディ川崎	2-1	2004	FC東京	0-0(PK4-2)
1994	ヴェルディ川崎	2-0	2005	ジェフユナイテッド千葉	0-0(PK5-4)
1996	ヴェルディ川崎	3-3(PK4-5)	2006	鹿島アントラーズ	0-2
1997	鹿島アントラーズ	2-1, 5-1※	2007	川崎フロンターレ	0-1
1998	ジュビロ磐田	4-0	2008	大分トリニータ	2-0
1999	柏レイソル	2-2(PK5-4)	2009	FC東京	2-0
2000	川崎フロンターレ	0-2	2010	ジュビロ磐田	5-3
2001	ジュビロ磐田	0-0(PK1-3)	2011	浦和レッズ	0-1
2002	鹿島アントラーズ	1-0	2012	清水エスパルス	1-2

※ホーム&アウェイ

「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」 9月の受賞選手決定

各月のリーグ戦(J1、J2)において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ 月間MVP」の9月度の受賞選手が決定した。J1はFC東京のMF長谷川アーリアジャスール、J2がヴィッセル神戸のMF小川慶治朗。受賞したJ1選手には賞金30万円、J2選手には同じく20万円を授与。選考は当該月のリーグ戦における活躍を対象に、サッカー専門メディアとJリーグからなる選考委員会で行われる。



9月の3連勝に貢献し、順位浮上の原動力となった長谷川

JリーグとJPF A が労使協議会を開催

JリーグとJPF A (日本プロサッカー選手会) が10月7日、労使協議会を開催した。Jリーグの大東和美チェアマンが、2015シーズンから始まるJ1リーグ戦の2ステージ制の導入に至った経緯などを説明。同チェアマンは「選手会ともベースの認識は共有できた」と話した。また、選手会の佐藤寿人 会長(サンフレッチェ広島)は「リーグのこれからの発展を考えた時に、ポストシーズン制の導入は避けては通れないと自分自身も感じた」と理解を示した。(共同通信)



中央で握手する大東チェアマン(右)と佐藤

功労選手賞について

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、元Jリーグ選手の中山雅史、土肥洋一、服部公太の3氏に対し、功労選手賞として表彰することを決定した。なお、功労選手賞は12月10日(火)に神奈川県横浜アリーナで開催する「2013 Jリーグアウォーズ」にて表彰する。Jリーグアウォーズは、ことしもファン・サポーターの観覧希望者を1万人、募集して開催する。

表彰者	
中山 雅史	1993年～2009年 ジュビロ磐田 2010年～2012年 コンサドーレ札幌
土肥 洋一	1993年～1999年 柏レイソル 2000年～2007年 FC東京 2008年～2012年 東京ヴェルディ
服部 公太	1996年～2011年 サンフレッチェ広島 2012年 ファジアーノ岡山

第6回ガンバ大阪スカンビオカップを後援

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、11月9日(土)に大阪府吹田市の万博フットサルクラブで開催される「第6回ガンバ大阪スカンビオカップ」(主催:株式会社ガンバ大阪)を後援することを決定した。本大会は、サッカー(フットサル)を通じて、精神障がい者が社会生活に触れる場をつくり、社会復帰や回復への支援を行い、さまざまな地域との交流を図りながら、この活動を広めることで精神障がいへの偏見を取り除くことを目的に開催する。

マルハンカップ 第19回日本電動車椅子サッカー選手権大会を後援

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、11月2日(土)に岡山県岡山市の岡山県総合グラウンド体育館桃太郎アリーナで開催される「マルハンカップ 第19回日本電動車椅子サッカー選手権大会」(主催:日本電動車椅子サッカー協会)を後援することを決定した。この大会は、日本国内において、電動車椅子サッカーの普及振興を図ることを目的に開催する。

柏レイソルが準決勝で敗退



AFC
CHAMPIONS
LEAGUE

アジアのクラブ王者を決めるAFCチャンピオンズリーグ(ACL)2013で日本勢として唯一、勝ち残っていた柏レイソルが、準決勝で敗退した。ホーム & アウェイによる準決勝が9月25日、10月2日に行われ、柏は広州恒大(中国)にホームで1-4、アウェイで0-4と連敗。2007年の浦和レッズ、08年のガンバ大阪に続くACL決勝進出の望みを断たれた。

地域リーグ所属のJリーグ準加盟クラブ3クラブに対するJ3参加のための「J3ライセンス基準」の審査終了延期

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、J3参加のための「J3ライセンス基準」(ステップ2)の審査に関し、当初予定していた10月理事会までの審査終了を、東北1部リーグのグルージャ盛岡、東海1部リーグのアスルクラロ沼津、中国リーグのレノファ山口という地域リーグ所属のJリーグ準加盟クラブ3クラブに対しては1カ月延期し、11月の理事会で審査結果を出すことを決定した。これにより、3クラブに対するJ3入会の最終決定は、12月の理事会となる。

■審査終了延期の理由

- J3ライセンスに定める人員(クラブスタッフ、チームスタッフなど)の充足を裏付ける、来期の収入の実現可能性を精査する。
 - J3に対してもライセンス審査を導入した目的は「リーグ戦を安定して運営すること、そして「クラブ経営の基盤を着実に整える」ことをJリーグとして重視していることの表明であり、クラブにもその重要性を意識してもらうことであるため。
 - 地域リーグから3クラブがJ3ライセンス審査に進むことになったが、審査の状況から考えて、実質的に、この3クラブのうち1クラブが、史上初めて「地域リーグからの飛び級(JFLを経ないで入会)」でJリーグに入会することとなるため。飛び級により、J3を安定して運営するために、社員(クラブスタッフ)やチームスタッフを大幅に増員させる必要があるが、そのためには、来期の収入予算の達成が必須となるため。
 - 来期収入予算達成の大きな要因となるのは、来期の広告料収入であることが明らかだが、この収入の内定状況については、スポンサーの意向もあり、時間を要することから、継続的に精査すべきであるため。
 - 上記③に伴い、来期広告料収入の内定状況を基に、来期のクラブスタッフなど、J3ライセンス取得に必要な人員がそろえられるか否かを審査することとし、それによってJ3ライセンス審査の可否を判定することとしたため。
 - なお、3クラブに対しては、準加盟承認にあたり、「J3参加に関する場合は、来期の予算を早急に編成の上、地元具体的に説明し、予算として見込んでいる収入を早急に確定させること」との付帯事項を出した。これに合わせ、10月4日までに、3クラブより来期予算が提出された。
- 「先にJ3ライセンスを交付すること」によるデメリットの抑止
 - 3クラブに対し、J3ライセンスを交付することは可能ではあるが、「クラブ全体の基礎体力強化」という、J3設立の趣旨から見ると、以下のような課題が発生する。
 - J3入会が決まった後に、収入予算の未達により、必要な人員をそろえられなくなり、J3ライセンスを事後的に不足しない状況が生じる可能性がある。
 - 上記の課題はそのまま、今月(10月)にJ3ライセンスを交付するデメリットに直結するため、このデメリットを抑止し、今一度J3クラブの経営基盤の安定化という本来的な趣旨に立ち返る必要があるため。

第6回スポーツクラブサミットを後援

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、11月16日(土)、同17日(日)に東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター(国際交流棟1階 国際会議室)で行われる「第6回スポーツクラブサミット」(主催:公益財団法人日本スポーツクラブ協会)を後援することを決定した。本サミットは、全国に各種のスポーツクラブを普及・育成するための事業の一環として開催している。

株式会社ブリヂストン、株式会社サガン・ドリームス 共催「特別講演会」を後援

Jリーグは、10月15日に開催した理事会で、同23日に株式会社ブリヂストンと株式会社サガン・ドリームスが共催した「特別講演会」を後援することを決定した。ことしで6回目となった本講演会は、地域密着を掲げるサガン・ドリームス(サガン鳥栖)がクラブスポンサーでもある地元の企業と共に、より一層の地域貢献を図ることを目的に実施している。

Jリーグディビジョン3 (J3) 設立にあたって

ことし3月に行われたメディア向け説明会で概要が明らかになったJリーグディビジョン3(J3)は、その後、参加希望クラブの審査など、2014シーズンの開幕に向けた準備が進み、年内には参加12チームが決定する予定。このJ3設立に当初より関わってきたJリーグ理事でもある大河正明 管理統括本部長が、発足の経緯、想定するリーグ像などを語った。

理念的根拠と現実的問題

J3設立の理念的な根拠には、地域に根差したスポーツクラブを全国につくり、サッカーを見る人、する人、支える人の輪を広げたいというのがJリーグの理念であり、それに賛同する会員を増やしたいということがあります。参加希望クラブへのヒアリングなどを実施していくと、JFLでは半数以上のクラブが将来のJリーグ入会を望んでおり、地域リーグにも同様のクラブがありました。Jリーグの理念に賛同するクラブが増えるのであれば、J3という形で仲間を増やしてもいいのではないかと、というのが一つの背景です。

一方、現実的な問題もありました。JFA(日本サッカー協会)とJリーグは2008年の将来構想委員会で、J1を18クラブ、J2を22クラブとすることを目標に、その下部についてはJFLの活性化を中心に検討することとしました。

ところが、12年のFC町田ゼルビア、松本山雅FCのJ2入会によって、J1・J2の40クラブ体制が実現し、そのシーズンの終わりにはJ2とJFLの間での入れ替えも現実味を帯びてきました。そうすると、同じ目的を持つ会員の集まりである社団法人の理念と異なる現実が起きてしまう。クラブが離れていくことによって、Jリーグの理念の具現化が後退してはいけい。入れ替えとなったクラブをどのようにJリーグの枠組みにとどめておくかという議論もあって、J3の創設という結論に至りました。時期が早いのか遅いのかは別として、クラブ数が増えてくれば、J3の必然性はあると思っていました。

J3設立に向けて現実的にスタートしたのは、2年ほど前のことでした。JFLの理事も務めるJリーグの窪田慎二 企画部長から「今のJFLのままでは活性化は厳しい」という意見があり、選手としても現場を知っている彼の言葉は私にたいへん響き、かつ重いものでした。「クラブごとにファン・サポーターの数も違うし、目指すところも異なる。方向感を同じくするクラブで新たなリーグをつくった方がいいのでは」と。そのような考えを持つ人々を含め、JFAと手を携えながら、どのように進めていくかというのがスタートでした。



求められる人材

クラブの予算規模は1億5000万〜3億円ぐらいを想定しています。極端なことを言えば、予算が2億円のクラブが1億円の赤字を出すことはない。数百万円の赤字となる可能性はありますが、経営者にある程度の資産背景があり、少しスポンサーを集めたり、入場者数が増えれば克服可能な数字です。しっかりと予算を管理していれば、財政破綻の可能性は少ないのではないのでしょうか。収入は手堅く想定して、支出は多めにしておく。これは経営上、普通の考え方であり、J3を目指すクラブにも強調しています。

クラブ数が増えてくるにつれて必要となるのが人材です。大きく分けると強化育成、事業運営、管理の三つですが、これらを高いレベルで全てこなせる人材はいないでしょう。社長が管理系なら、強化、事業に強い人をバランスよく配置しなければなりません。特に、予算といった計数面がある程度、理解できる強化担当の必要性が高まっています。GM(ゼネラルマネージャー)的な才覚も備え、経営規模の範囲内でいかにいいチームをつくっていくか。こうした人材の育成は、教育機関などとの協力も含めて、Jリーグとしても取り組んでいきたいテーマの一つです。

チームはさまざまな選手の受け皿になると思います。残念ながらJ1やJ2で出場機会をつかむことができなかった若い選手、現役生活の最後を地元で飾りたい選手など、そういった選手たちが花形として活躍するのも理想形の一つかもしれません。さらに、Jリーグとパートナーシップ協定を結んでいるリーグがある国の出身選手には、特別枠を検討しています。いきなりJ1でプレーするレベルになくても、彼らにとっても一つのステップとなるでしょう。さらに、

当該国の観光客誘致やビジネスのきっかけになる可能性も秘めています。

最高のアイデアは現場に

Jリーグは頂点を高くすることを目指す一方、そのために裾野を広げていくことも重視しているので、J3は徹底的にローカル化にこだわってもいいのかなと考えています。ローカルコンテンツとしてのJリーグは、J2も含めて一定の成功を収めており、J3はもっと地域色を押し出していいかもしれません。

福島ユナイテッドFCをヒアリングで訪れた時のことですが、「レノファ山口との試合を楽しみにしている」とのことでした。幕末の戊辰戦争における会津と長州の因縁で、試合も盛り上がりそうだというわけです。新たなダービーマッチが生まれる可能性もあります。

こうして地域が盛り上がれば、UターンやIターンなど、地方を目指す人が増えるかもしれない。各地方には独特の味わい深い歴史と伝統があり、おいしい食材や見どころも数多い。それに楽しみ、応援する対象としてのスポーツが加われば、地域活性化の促進にも役立つでしょう。

J3入会を目指すクラブには、経営者をはじめ関係者がクラブについて、地域について一生懸命に考えることを切に願っています。もちろん、チームの勝敗も重要ですが、クラブがどのようにして地域に根付き、サポートしてもらい、成長していくのか。そういったことを日夜、考えているようなスタッフが必要で、夢を持って取り組む人に、社長の理解力、決断力があれば、いいサイクルができるでしょう。答えは決して一つではありません。最高のアイデアは現場にこそあり、自分たちで正しいやり方を見つけないことができるようなクラブ、スタッフとなってほしいと思います。(談)

クラブライセンス交付第一審機関(FIB)による 2014シーズン Jリーグクラブライセンスの交付について

Jリーグは9月30日、2014シーズン Jリーグクラブライセンス(Jライセンス)交付についての決定を発表した。

Jライセンスを申請した43クラブの全てがクラブライセンス基準をクリアし、J1クラブライセンスは36クラブ、J2クラブライセンスは7クラブ(2013シーズンは、それぞれ33、8)に交付された。新たにJ1クラブライセンスを交付されたのは、ザスパクサツ群馬、愛媛FC、V・ファーレン長崎の3クラブ。J2クラブライセンスのうち、Jリーグ準加盟クラブで現在はJFL所属のFC町田ゼルビア、ツエーゲン金沢、カマタマーレ讃岐は条件付き交付となり、リーグ戦の成績を含め、J2入会審査に合格

すればJ2入会となる(合格しなければライセンスは下りない)。

また、「是正通達」「個別通知」という経営上の指導を要するクラブは、前シーズンの18から17へ減少した。経営上の課題について注意深く見守る必要があるクラブは事実上、長崎を除く16クラブとなっている。

発表を行ったJリーグの大河正明 管理統括本部長はJリーグクラブライセンス制度について、「昨年との比較から、スタジアムや練習環境に改善の兆しがあり、赤字クラブも減るなど、一定の成果は出ていると思う。もちろん、これでいいというわけではなく、観戦環境の改善などにはさらに力を入れていきたい」、また

「2014年度末時点で3期連続赤字、または債務超過となるクラブは、2015シーズン以降のライセンス基準を満たさないことになる。それについて、財務は経営状況を最終的に判定する来年が勝負」と述べた。

Jライセンスの交付判定の審査については、第三者機関であるクラブライセンス交付第一審機関(FIB)が行う。

Jリーグは、JFAから日本におけるクラブライセンス制度の制定および運用の委任を受けたことにより、日本におけるライセンス交付機関(ライセンサー)として、Jリーグクラブライセンス制度を運営し、Jクラブならびに準加盟クラブに対してJライセンスを交付する。

■判定結果

1. 判定結果

	J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	合計
	36	7	
判定	札幌、仙台、山形、鹿島、栃木、群馬、浦和、大宮、千葉、柏、F東京、東京V、川崎F、横浜F、横浜FC、湘南、甲府、松本、新潟、富山、清水、磐田、名古屋、京都、G大阪、C大阪、神戸、岡山、広島、徳島、愛媛、福岡、鳥栖、長崎、熊本、大分	水戸、岐阜、鳥取、北九州、町田、金沢、讃岐	43
(うち、条件付き交付)	—	(3) 町田、金沢、讃岐	(3)

2. B等級基準の充足状況

	J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	合計
B等級充足	12	1	13
B等級未充足(文書提出)	24	6	30
合計	36	7	43

3. FIBからの経営上の指導

	J1クラブライセンス	J2クラブライセンス	合計
是正通達	9	3	12
個別通知	4	1	5
指導なし	23	3	26
合計	36	7	43

《参考》

■Jライセンスの種類

Jライセンスには右記の2種類があり、各ライセンス基準のうち「A等級」に指定されている基準を充足すれば、いずれかのJライセンスが交付される。

ライセンスの種類	内容
J1クラブライセンス	順位などの要件を満たしていれば、2014シーズンはJ1に残留または昇格することができる。
J2クラブライセンス	順位などの要件を満たしていれば、2014シーズンはJ2に残留または昇格することができる(J1に昇格することはできない)。

■判定に付帯する事項

(1) 条件付き交付判定

2013年9月末時点でJライセンスは交付されるが、別途定められた条件を満たす必要がある。Jリーグ準加盟クラブは、Jライセンス交付を受けた後、入会審査を受けて審査に合格しなければJ2入会(昇格)ができない。

項目	内容
条件付き交付	別途定められた条件として、J2入会審査に合格する必要がある。 (※対象：町田、金沢、讃岐)

(2) B等級基準未充足

各ライセンス基準のうち「B等級」に指定されている基準(3つ)については、それを充足していなくてもJライセンスは交付される。ただし、クラブライセンス交付規則第7条および第15条に基づき、B等級の基準を一つでも充足していないクラブには、Jライセンス交付と同時に制裁を科すこととなっている。

項目	内容
B等級未充足	B等級基準(特にスタジアムの屋根の大きさ・トイレの数)を充足していないクラブに対し、Jライセンス交付と同時に制裁が科される。(※対象：30クラブ)

【注】クラブライセンス交付規則の用語上、「制裁」という厳しい言葉になっているが、本件における制裁の内容はFIBに対する「文書提出」である。

具体的には「2014シーズンにおいて使用を予定しているスタジアムに関し、衛生施設および屋根の不足に伴い、観客へのホスピタリティが低水準であることについて、クラブがすでに昨年より実施しているホスピタリティ向上策の実施状況および今後の施策を、2013年10月31日までに書面で回答すること」となっている。

(3) クラブ経営上の指導

Jライセンス判定には直接関係ないが、判定に際し、クラブに経営改善を促す目的で、FIBが独自に指導を行うことができる。指導には「是正通達」および「個別通知」があり、是正通達の方が重い指導となる。

項目	内容
是正通達	Jライセンス交付判定に付帯して、クラブ経営上、是正すべきと思われる点について、FIBが対象クラブに通達を出す。通達の内容は公表する。(※対象：12クラブ)
個別通知	「是正通達」とまではいかないが、FIBからクラブ経営上、改善を要請する旨の指摘があった場合、それを受けたライセンスマネージャーが対象クラブに個別に指摘事項を通知する。(※対象：5クラブ)

■Jライセンス判定の前提 下記の前提条件のもとに判定を実施した。ただし、下記は前提条件の主要な一部であり、全てではない。

(1) 交付規則第15条2項

ライセンス判定の材料となるものは「クラブが提出したライセンス申請書類一式(Jリーグの指示に基づき追加提出されたものを含む)」および「審問であらわれた一切の記録」。

(2) 交付規則第22条1項

ライセンス申請書類の提出締切日の状態が判定基準となる(別段の定めがある場合を除く。今年の締切日は7月1日)。

(3) クラブライセンス制度 施設基準の運用に関するJリーグ理事会決定(2011年8月)

7月1日時点でホームスタジアムが建設中または改修中であるクラブには、以下の対応を実施。

- ①クラブおよびスタジアム所有者から資料を取り寄せ、ヒアリングを実施の上、来シーズンの開幕までにスタジアムが供用開始できることを確認
- ②①が確認できた場合、設計図面などにより、工事完了後のスタジアムのスペックを確認

育成年代からの キャリアデザインへの取り組み

Jリーグは、2010年より、Jリーグの人材育成活動における選手教育の新たな取り組みとして、文部科学省から競技者・指導者などのスポーツキャリア形成支援事業を業務受託し、「キャリア・デザイン・サポートプログラム Jリーグ版[よのなか]科」を実施している。Jリーグニュースでもその模様をお伝えしたことはあるが、今号ではより詳しく内容について紹介しよう。

この取り組みは、①プロを目指す競技者として、「サッカーとこれからの自分」との関わり方について考え、自分なりの考えを持つきっかけとすること、②競技者として必要な「思考力のトレーニング」として、自分で考え、他の人のさまざまな考えや意見を知り、考えることを楽しむこ

と、を目的としている。

Jリーグアカデミーのジュニアユース(中学生)を対象に、ペガルタ仙台、横浜F・マリノス、ガンバ大阪、アビスパ福岡の4クラブで2010年にスタート。11年以降は、プログラムを進行するファシリテーターの養成を目的とした講座

を開講しており、13年度の養成講座を終えると、初年度から数えて計63人のファシリテーターが誕生する。これにより、この4年間で全てのクラブにおいてプログラムが実施されたことになる(なお、13年には37クラブ42チーム788人の選手が参加予定)。そして、今後はJリーグアカデミーのジュニアユースにとどまらず、高校生年代や、選手に日々接しているアカデミーコーチにもその対象を広げること、このプログラムを継続的に推進していく。

また、このプログラムをアレンジしてJクラブがホームタウン活動にも活用していけるよう、発展させることを目指す。

キャリア・デザイン・サポートプログラム Jリーグ版[よのなか]科 実施概要

■対象 Jリーグアカデミーのジュニアユース(中学生)選手

※[よのなか]科 <http://www.yononaka-net.com/>

■開催期間 全5回のプログラムを1~2か月間で実施

〈プログラムの構成〉

Jリーグをテーマに、四つの視点(1:ビジネスの仕組み、2:産業構造、3:産業に関わるさまざまな職業、4:職業に必要な能力)からプログラムを構成。以下のテーマで全5回(45分×4回、90分×1回)の授業を実施。

- (第1回) Jリーグを取り巻く「お金」から仕組みを考える
- (第2回) Jリーグが目指すものを考える
- (第3回) Jリーグを取り巻く「職業」を考える
- (第4回) 職業と「意志」「役割」「能力」の関係を考える
- (第5回) 自分のキャリアイメージプランを考える

〈プログラムの特徴〉

- ① プログラムの進行…プログラムの進行役を「ファシリテーター」と呼び、正解のない課題を提示し、選手が自由に考えることを後押しする。
- ② 大人の関与の仕方…[よのなか]科では、「身近な大人の参加」を奨励している。保護者やコーチにも選手の中に入って違う立場からの意見を提供してもらい、選手の考えを「進化」させることを支援する。
- ③ ゲストの活用…「テーマにふさわしい本物のゲスト」を招き、選手により深く深い視点での気づきを与える。第1回ではクラブの経営幹部からクラブ経営の現状と戦略を、第4回ではサッカーに関連する職業に就いている人から「職業」と「意志」「役割」「能力」の関係を話してもらう。

〈プログラムの内容〉

[よのなか]科※の学習アプローチに基づき、子どもたちを積極的に学びに参画させ、学びへの意義や関心を促すプログラム。特に次の5点については、このプログラムを構成するために必要不可欠な要素としている。

- ・ 社会をテーマに、「ものごとの本質」を考える。
- ・ 思考リテラシー(思考技術)を養う。
- ・ 子どもたちに刺激を与える存在としてのゲストを登場させる。
- ・ 子どもにとっての身近な大人を授業に参画させる。
- ・ 「正解のない授業」、「失敗を許す授業」をくり返し実施する。

【受講選手の声／実施の様子】

● Jリーグを取り巻く「お金」から仕組みを考える

- ・ 収入と支出の仕組みやJリーグを支えるさまざまな環境を知ることができた。
- ・ 普段当たり前のように練習や試合をしているが、自分たちも多くの人に支えられているので「感謝の気持ち」を持って取り組みたい。

● Jリーグが目指すものを考える

- ・ Jクラブは地域の人たちにも支えられているし、逆にJクラブが地域のために活動して、お互い協力して成り立っている。
- ・ Jリーグの本質について学ぶことができた。今まで意識していなかったことも必要だと分かり、選手としてできることもいろいろあることが分かった。

● Jリーグを取り巻く「職業」を考える

- ・ 一つの試合だけでも数えきれない職業が関わっているのだと分かった。
- ・ サッカーに関わるさまざまな職業の役割や意味が分かった。

● 職業と「意志」「役割」「能力」の関係を考える

- ・ その人にしかできない「役割」を任されるよう成長したい。
- ・ ゲストの話から意志を高く持つことと、向上心が重要であることを学んだ。

● 自分のキャリアイメージプランを考える

- ・ サッカーはいろいろな夢を持っている人に支えられているので、選手になるという夢をあきらめるわけにはいかないと強く思った。
- ・ 職業に対するさまざまな人の「愛情」を知ることができた。自分もサッカーだけでなく感謝の気持ちでトップを目指したい。
- ・ これからなりたいことを具体的に考えて、ピッチの上でプレーできるよう努力したい。



ゲストの話は選手たちに、広く深い視点で考える気づきを与える

©コンサドーレ札幌

Report

レポート

[よのなか]科ファシリテーターを経験して

朝日新聞社 編集委員 潮 智史



横浜 F M でファシリテーターを務めた潮氏。子どもたちの自主性を引き出すことを意識して臨んだという

「覚悟が足りなかった…。」ファシリテーター養成講座の最初の研修を受けたときの正直な感想はこうだった。

続いて、「試されているのは選手ではなく、まさに進行役の自分だ…。」こちらは、実際に1回目のプログラムを終えて、準備不足を思い知ったときの感想である。

そして、「内容の工夫や準備に限界はない。よのなか科にはいくらでも広げられる可能性と深みがある」というのが、全5回を終えた現在の思いだ。

そもそも、よのなか科に興味を持ったのは、4クラブで試験的にスタートした2010年に横浜 F・マリノスの様子を取材したことがきっかけだった。感覚的に「おもしろそうだな」というのが、「実際に自分でやってみよう」となった。安易と言われれば、安易。でも、取材する側の宿命である、「しょせんは第三者」という立場を超えてサッカーに携わりたい、新しいチャレンジをしたいという強い欲求があった。

ファシリテーターを務めるにあたって強く意識したのは、大人の目線で何かを教えるとか、授けるといった意識をまず捨てることだ。

もともと、よのなか科は知識を授ける場では

なく、子どもたちが自らの頭で考えを巡らせる場だ。サッカーそのものが正解のないスポーツといわれるし、世の中の価値観がこれだけ多様になっている今、物事の本質を問い直すような場面が増えている。

例えるなら、コップの中に外から水を注ぐのではなく、コップから水が自然にあふれ出すように問い掛ける。そんなイメージを持って取り組んだ。

主役である選手と試合がさまざまな職業や役割を持つ人々によって成り立っていることに気付ければ、周囲に感謝しようという気持ちも自然に湧くだろうし、大人から「感謝を忘れずに」なんて言われて持つ気持ちとは全然違ったものになるだろう。

実際に、参加していただいたゲストティーチャーへの反応は思った以上だった。クラブのトップをはじめ、クラブ内外でサッカーに携わっている人々から生の声を聞く機会は中学生にとっては刺激的だったのだろう。

「今どきの子どもは消極的」とか、「自己表現ができない」と言われて久しいけど、彼らは刺激の与え方次第で豊かに反応を示した。おとなしいと思っていた子が最終回のプログラムで驚くような自己主張をしたりもした。「今どきの

子どもは…」というのは大人の側の都合のいい言い訳なのかもしれない。

担当した中学2年生のなかには「1年後のユース昇格ができなくても、大学経由でプロになる」という将来を描いている選手もいた。今どきの中学生は夢を持ちつつ、こちらが想像する以上にきちんと現実を受け入れている。プログラムを体験した彼らの5年後、10年後の姿をぜひ追ってみたいと思う。

担当者からのコメント

Jリーグ 管理統括本部 企画部 人材教育・キャリアデザインチーム
チーフ 吉田 国夫

クラブスタッフや指導者以外のサッカーに関わる外部の方々にファシリテーターを経験してもらうことは、Jリーグがアカデミー年代をさまざまな角度から育成していることの理解を深める意味で、非常に有意義であると考えています。

本プログラムは、社内各セクション、選手、外部関係者など「クラブ」という[よのなか]に関わる多くの方々に協力してもらうことで成り立つものであり、それぞれが選手育成の重要性を認識することで、Jリーグの理念の一つである「日本サッカーの水準向上およびサッカーの普及促進」の一助になると認識しています。

今後も、外部のさまざまな分野の方々や選手OBなどにファシリテーターとして参加いただくことを望むと共に、いろいろな派生プログラムを開発し、クラブの選手育成を力強くサポートしていきたいと思っています。



子どもたちは刺激の与え方次第で豊かな反応を示した



清水エスパルスでの様子。グループワークの成果を仲間の前で発表する

© 清水エスパルス



「2013 Jユース カップ」が開幕

ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「2013 Jユースカップ 第21回 Jリーグユース選手権大会」が、10月12日に開幕した。21回目の開催を迎える今大会は、J1・J2の全40クラブと、Jリーグ準加盟クラブのFC町田ゼルビア(JFL)が参加。全41クラブを10グループに分け、各グループで1回戦総当たりリーグ戦を行う。そして、各グループの1位と2位の計20チームに、一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟地域代表の4チームを加えた合計24チームによる1回戦制の決勝トーナメントを行う。決勝は

恒例となった大阪長居スタジアムで、12月23日(月・祝)に予定されている。

Jリーグの各クラブは発足当時から、日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟、地域のサッカークラブ、部活動などと連携し、地域の育成普及に力を注いでいる。現在、SAMURAI BLUE(日本代表)やJクラブのトップチームの中にも、本大会に出場して経験を積み、成長を遂げた選手も少なくない。歴史を積み重ね、年ごとに価値を高めている本大会を通じ、次代を担う選手たちが大きく成長することが期待される。



昨年の大会の優勝カップ

2013 Jユースカップ 第21回 Jリーグユース選手権大会	
大会概要	■大会名称：2013 Jユースカップ 第21回 Jリーグユース選手権大会 ■主催：公益財団法人 日本サッカー協会／公益社団法人 日本プロサッカーリーグ／朝日新聞社／日刊スポーツ新聞社 ■共催：一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟 ■協賛：株式会社日本旅行、その他未定
予選リーグ	■開催日：10月12～27日 ■組み分け：Aグループ(4チーム)：札幌／栃木／大宮／千葉 Bグループ(4チーム)：仙台／水戸／柏／F東京 Cグループ(4チーム)：山形／鹿島／群馬／浦和 Dグループ(5チーム)：東京V／新潟／磐田／岐阜／町田 Eグループ(4チーム)：横浜FC／富山／名古屋／G大阪 Fグループ(4チーム)：川崎F／甲府／清水／C大阪 Gグループ(4チーム)：横浜FM／湘南／松本／京都 Hグループ(4チーム)：鳥取／広島／徳島／鳥栖 Iグループ(4チーム)：神戸／長崎／熊本／大分 Jグループ(4チーム)：岡山／愛媛／福岡／北九州
決勝 トーナメント (予定)	■1回戦：11月2日(土)／J-GREEN堺、味の素フィールド西が丘 11月4日(月・休)／味の素フィールド西が丘、山梨中銀スタジアム ■2回戦：11月9日(土)、10日(日)／出場クラブのホームスタジアムなど ■準々決勝：11月17日(日)／キンチョウスタジアム、味の素スタジアム西競技場 ■準決勝：12月21日(土)／キンチョウスタジアム ■決勝：12月23日(月・祝)／大阪長居スタジアム 各予選グループ1位と2位の計20チームに、日本クラブユースサッカー連盟地域代表の4チームを加えた合計24チームによる1回戦トーナメント方式

歴代優勝チーム
第1回(1994年) ヴェルディ川崎ユース
第2回(1994年) ガンバ大阪ユース
第3回(1995年) サンフレッチェ広島F.Cユース
第4回(1996年) ヴェルディ川崎ユース
第5回(1997年) 清水エスパルスユース
第6回(1998年) 鹿島アントラーズユース
第7回(1999年) ヴィッセル神戸ユース
第8回(2000年) ガンバ大阪ユース
第9回(2001年) 京都パープルサンガユース
第10回(2002年) ガンバ大阪ユース
第11回(2003年) サンフレッチェ広島F.Cユース
第12回(2004年) 鹿島アントラーズユース
第13回(2005年) 清水エスパルスユース
第14回(2006年) サンフレッチェ広島F.Cユース
第15回(2007年) FC東京U-18
第16回(2008年) ガンバ大阪ユース
第17回(2009年) FC東京U-18
第18回(2010年) 横浜F・マリノスユース
第19回(2011年) 名古屋グランパスU18
第20回(2012年) コンサドーレ札幌U-18

第1回は1994年3～4月、第2回は同10～12月に開催



鹿島アントラーズユース vs ザスバ草津群馬U-18

©KASHIMA ANTLERS



名古屋グランパスU18 vs ガンバ大阪ユース

©J.LEAGUE PHOTOS

